

平成 30 年 3 月 30 日

平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 大学院生物資源学研究科
氏 名 吉松隆夫

活動テーマ	志摩域における水産増養殖の振興に関わる研究および教育での連携
実施期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日
活動内容	(1) 具体的な活動実施内容 アワビ類やイセエビの増殖に供せられる種苗の生産用の微細藻の性能評価試験, 気候変動が磯根資源の再生産に与える影響に関する調査, また近年水族館の展示物として人気が高まっており磯根資源の増殖に影響を与えうるクラゲ類の繁殖生態と海洋環境の変化の影響に関する研究等。 (2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与, 広がり) 三重県立水産高等学校との連携であり, 地域の発展及び活性化に大いに資するものである。 (3) 共同実施者との連携状況 三重県立水産高等学校と共同で実験を実施するとともに, 事業に関連する内容について論文を執筆し, 平成 30 年度三重大学生物資源学部紀要に投稿した。 (4) 大学の教育・研究成果のかかわり 三重大学の高大連携事業の一つとして重要な取り組みであるだけでなく, 地域の水産業の発展と水産科学分野の発展に大いに資する内容となった。 (5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等) 平成 29 年 8 月 30 日に水産高等学校実習棟において, 三重大学生物資源学部水圏生物生産学講座 3 年生約三十名を対象に浅海増殖学実習を実施し, 真珠の品質評価に関する講義と実習を水産高等学校の筒井教諭他が担当した。



(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について
投稿中の紀要原稿の概要を以下に記す。

真珠養殖用に挿核施術されたアコヤガイに対し、陸上飼育槽内で餌料用微細藻類を給餌して飼育し、天然海域で養生される個体との体重増加率、体内の栄養状態について比較を行った。15 日間の養生期間後に、各試験区の体重増加率を測定したところ、陸上水槽内で *Rhodomonas* sp. を与えた試験区で最も高い体重増加率が得られた。一方、同じ飼育条件であっても *T. tetrathele* を与えられた試験区では体重増加率は低く、天然海域で飼育された養生貝よりも成長率が低い結果が得られた。飼育試験終了後に各試験区の養生貝についてタンパク質含量、脂肪酸組成分析を行ったところ、両成分ともに天然海域で飼育された養生貝で最も高く、次いで *Rhodomonas* sp. を与えた試験区で高い値が得られた。本試験より、陸上水槽での養生であっても餌料価値の高い微細藻類を給餌することで、天然海域での養生個体と同等かそれ以上の成長率が得られることが明らかとなった。